



京まなびい News Letter ニュースレター

京都府教育委員会事務局生涯学習部

大人も子どもも 共に科学に親しもう！

昭和44年の開館以来、50年以上の歴史がある京都市青少年科学センターは、市民の皆様へ科学に親しんでもらえる施設です。また、市立学校の児童・生徒を対象とした科学センターでの学習はもとより、教職員の研修にも活用され、館内の展示品はそのノウハウを活かして制作されています。最大の特徴は「体験型」。展示品を見るだけでなく、実際に触ったり、体験したりすることができます。懐かしくて新しい、京都市青少年科学センターの今を取材しました。

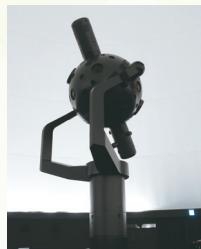
京(KYO)も学んじゃおっ！「京都市青少年科学センター」編

まずは館内にある市内唯一のプラネタリウムへ。令和2年10月に、投映機が最新のものになったばかりです。

当日の星空やさまざまな天文現象、季節ごとに異なるオリジナル番組を、所員の方がその時その時のお客さんの反応を見ながら解説してくれます。最新鋭の投映機で描き出される星空はまるで宇宙旅行をしているかのようなリアルさでした！



色鮮やかに映しだされた星座



最新鋭の投映機

大人向けに落ちついた空間で星空を堪能できるプログラムや小さなお子さんも楽しめるプログラムなど、ニーズに応じた番組が作られていますので、ぜひチェックしてみてください。

その後、2階、3階にある展示場で、時代ごとの化石が学べる新展示品「化石トンネル」や、日本初の2方向投影システムを採用し、地球環境を視覚的に体感できる「みらい地球儀」などを見学しました。他にも、自分で電巻を作ったり、元素からできている製品を確認できる展示品や、先端技術を有する京都の企業の協力の下、毎年夏に公開している「企業特別展」の歴代協力企業の展示品などが体験できます。



化石を間近に見られる「化石トンネル」



空間に浮かんでいるかのような「みらい地球儀」

館内にある約100点の展示品は、どれも所員の方が企画や制作に関わったオリジナルのもので、体験したり、「触れて」学べるのが重視されているそうです。科学を「おもしろい」、「なぜだろう」と思うことによって将来の科学者が生まれるかもしれないですね。

取材時は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら一部休止されている展示品もありましたが、入場制限やイベントの定員削減を実施し、消毒も徹底しているということで、安心して体験することができました。

※ 新型コロナウイルス感染防止対策について、最新の情報は京都市青少年科学センターのホームページをご覧ください。

他にも、憩いながら、日本各地の岩石や四季の草花、鳥や昆虫を観察できる屋外園もあります。

大人も子どもも共に学べる京都市青少年科学センターで、科学について気軽に学んでみませんか。



京都の企業展ブース

♪ 小さなお子さんも楽しめます! ♪

館内には乳幼児と保護者向けに、科学に興味関心を持つきっかけづくりの場として「親子ふれあいサイエンスルーム」が開設されています。親子で科学に親しめる遊具や玩具があるほか、季節のイベント、ボランティアの方による絵本・紙芝居の読み聞かせなども行われています。



京都市青少年科学センター

TEL.075(642)1601 FAX.075(642)1605

住 所 京都市伏見区深草池ノ内町13

アクセス 京阪 藤森駅下車、西へ約400m、地下鉄 竹田駅下車、東へ約1km

開館時間 9:00~17:00 ただし入館は閉館の30分前まで

休 館 日 木曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)・年末年始

ただし、春・夏・冬休みの木曜日は開館

料 金 ホームページ等でご確認ください。



京都市青少年科学センター

検索

京都市社会教育委員のコラム まなびいの

つぼ



鈴鹿 可奈子氏
プロフィール

大学卒業後、信用調査会社勤務を経て、平成18年、家業である聖護院ハッ橋総本店に入社。商品企画などを手がけ、平成23年に新しい形でハッ橋を提供する新ブランド「nikiniki(ニキニキ)」を立ち上げる。

※「社会教育委員」とは？

社会教育法に基づき、生涯学習の計画の立案をはじめ、家庭・地域の教育力の向上や京都の豊かな学習資源の活用など、生涯学習全般に関し、教育委員会に助言を行います。(現在17名)

大きな変化の年を経て

京都市社会教育委員 鈴鹿 可奈子氏 (株式会社聖護院ハッ橋総本店専務取締役)

2020年度、誰にも予想がつかない1年となりました。こちらのニュースレターが発行される頃にはどのような世の中になっているのか、見当が付きません。特に新生活を迎えられる学生さんや新入社員の方々は、胸を躍らせ飛び込んだはずの新しい世界だということに、人間関係を築く時間を未だ持てなかったり、学びたいことに直接触れる機会が少なかったりと、もどかしい思いを募らせていらっしゃるのでしょうか。

私も昨年春より娘が幼児教室に通い始め、ようやく産前のように仕事を始めようというところで出鼻をくじかれ、動揺しました。今振り返れば、幼い娘との時間を予想外に長く過ごすことが出来るかけがえのない年になったのですが、復帰する意気込みが空回りしてしまい、また暫く仕事から離れていた不安から、世の中から取り残されるように感じたのかもしれません。

ただ、この感覚はおそらく、コロナ禍の現在に限らず出産を経た女性が仕事復帰をする際に直面するものなのでしょう。保

育園への入園問題を含め、産後の女性の職場環境の悩みは、娘が産まれたことで周りから耳にすることが増えました。当社では出産後も引き続き働いてくださる社員さんが昔から多いのですが、いざ自分がその立場となり、仕事面での待遇だけでなく皆さんが各家庭での時間も大切に出来るよう、更に充実させていかなければと思う点が見えるようになりました。

今回の世界的な新型コロナウイルスの流行は、私たちに大きな課題を投げかけました。生活様式の変化と簡単に口にしますが、ネット環境を充実させたり公共交通機関の混雑を緩和しなければならなかったりと一筋縄ではいかないことばかりです。「まあそのうちに」と言われてきたことを、迅速に進めていかなければならない。ある意味背水の陣のようですが、この変化を糧に今後、例えば外出しにくい人にも学びの機会が同じように与えられたり、一人一人が能力を仕事に活かせたりといった、新たな光が生まれてくると信じています。



「京(みやこ)まなびいニュースレター」の内容についてのお問合せ先

京都市教育委員会事務局生涯学習部(生涯学習推進担当)

京都市中京区富小路通六角下がる骨屋之町549(元生祥小学校)

TEL:075-251-0410 FAX:075-213-4650 メールアドレス:shogaigaku@edu.city.kyoto.jp

京まなびいニュースレター第28号 令和3年3月発行

